

インターバンクの声（2015年3月25日）

東京市場後半からロンドン、ニューヨーク市場序盤の間、あれだけ激しく動いたユーロ/ドル、ドル/円も、さすがにニューヨーク市場の後半からは動きが緩やかになった。10日ほど前に節目の1.05ドルを割り込み、多くが1.00ドルのパリティーに向かって続落すると予想したユーロ/ドルは、その後は反発傾向が続き、昨日もギリシャが週内に融資受け取りでユーロ圏と合意の報や、上振れしたユーロ圏の経済指標を好感して1.10ドルを上回る水準まで回復した。市場では依然として米連邦準備制度理事会（FRB）と欧州中央銀行（ECB）の金融政策に対極的な違いがあるとしてドル高のセンチメントが維持されているようだが、問題はユーロ/ドルの500ポイント以上の反発や豪ドル/ドルの400ポイント近くの反発が調整の範疇に収まっているのかどうかの認識だ。ドル/円にしても昨年12月上旬に届かなかった122円をようやく今月10日に突破したが、その後はドルの下落となっている。先週の米連邦公開市場委員会（FOMC）で6月や9月の利上げ開始の想定が後ずれした可能性が高まったことも大きく影響していると思われるが、市場が暫く続いたドル高トレンドがこのまま続くのか疑問を持ち始めたことも反映しているのかも知れない。日程的には、またしても来週末の米雇用統計結果が大きく影響することになりそうだ。

提供：SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。